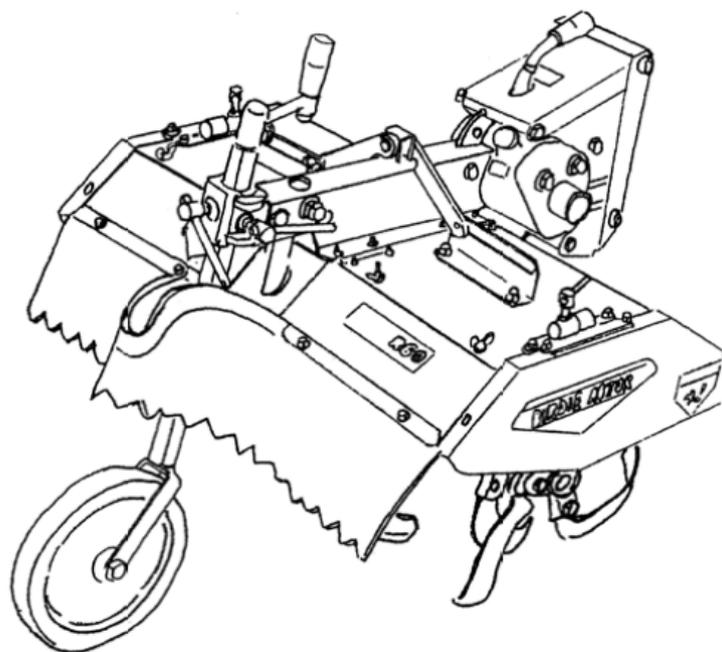


取扱説明書

バーディーティラー用作業機

“バーディーローター”

R60



80-1712-000000



- 取扱説明書本文中に出てくる重要危険部分は、製品を使用する前に注意深くお読みいただき、十分理解してください。
- 本製品ご購入の際には、販売店より安全のための使用方法についての説明をお受けください。
- 取扱説明書はいつでもごらんになれるよう、品質保証書とともに大切に保管してください。

株式会社

オーレック

目次

項目	頁
《はじめに》	1
《本製品の規制について》	1
《保障とサービスについて》	1
《定義とシンボルマークについて》	2
《安全に作業をするために》	2
《各部の名称》	4
《各部のはたらき》	5
《機械を他人に貸すときは…》	6
《仕 様》	6
《上手な作業のしかた》	7
作業前の始業点検 ————— 7	耕うん作業のしかた ————— 8
溝掘り（畝立て）作業のしかた ——— 9	
《保管のしかた》	1 2
《各部オイルの点検・交換・注油のしかた》	1 2
ロータリーケース ————— 12	可動部への注油 ————— 13
《そのほかの点検》	1 3
《耕うん爪の点検と交換のしかた》	1 3
《工具袋・同梱品明細》	1 4
《消耗品明細》	1 4
《アタッチメント（別売品）の紹介》	1 5
《定期点検表》	1 7
《自己診断表》	1 7

《はじめに》

このたびは、本製品をお買い上げ頂きまして誠にありがとうございました。

この取扱説明書は本製品を常に最良の状態に保ち、安全な作業をしていただくために、正しい取扱い方法と簡単なお手入れ方法について説明してあります。

ご使用前に必ずこの取扱説明書を良くお読みいただき、安全な運転作業と正しい取扱方法を十分理解し、安全で能率的な作業にお役立て下さい。

又、お読みになった後はいつでも取り出してご覧になれるよう大切に保管し、本製品を末永くご使用頂けますようご活用下さい。

尚、品質・性能向上及びその他の事情による部品等の変更で、お手元の製品と本書の内容が一部一致しない場合がありますので、あらかじめご了承下さい。

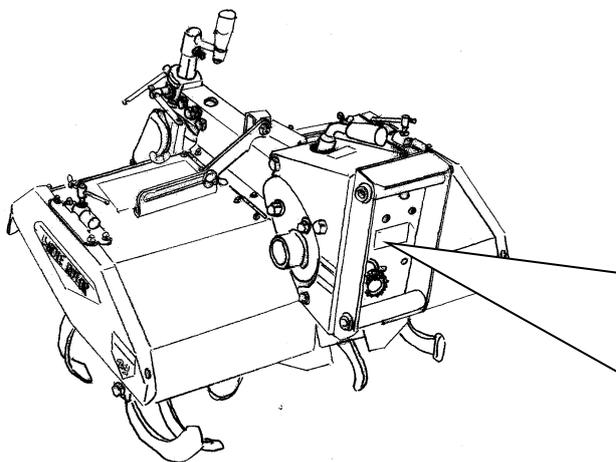
●装着する本機側(B×80)の取扱説明書もご熟読下さい。●

《本製品の規制について》

本製品は、弊社バーディーティラー(B×80)装着専用の農業用の畑の管理作業機として開発しておりますので、それ以外の本機への装着又は用途には絶対に使用しないで下さい。

《保証とサービスについて》

本製品の保証期間は、購入後1ケ年間、又は50使用時間(業務用については6ケ月間、もしくは50使用時間)の内どちらか早い時点で到達した方となっております。ご使用中の事故・ご不審な点及びサービスに関するご用命は、お買い上げ頂いた販売店又は当社営業所までお気軽にご相談下さい。その際、『商品型式と製造番号・搭載エンジンの型式名』を併せてご連絡下さい。



種類 Description	ロータリー(作業機)
型式名 Model	R60
区分 Type	
製造番号 Serial No.	0000000000
発売元	(株)オーレック
OREC 株式会社 オーレック MADE IN JAPAN OREC CO., LTD. FABRIQUE AU JAPON	

▲ 注意

「取扱説明書」に記載してある適正な点検・整備を怠った場合、及び仕様をこえた使用・改造等によつての故障・事故については、保証の対象外となります。

◎この製品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後9年と致します。但し、供給年限内であっても、特殊部品につきましては納期等についてご相談させていただく場合もあります。又、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

《定義とシンボルマークについて》

本書では、危険度の高さ(又は事故の大きさ)に従って、次のような定義とシンボルマークが使用されています。以下のシンボルマークがもつ意味を十分に理解し、その内容に従って下さい。

シンボルマーク	定 義
 危 険	その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。
 警 告	その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
注 意	その警告文に従わなかった場合、ケガを負う恐れがあるものを示します。また、遵守又は矯正しないと、製品自体に損傷を与えるものも示します。
参 考；	操作、保守において知っておくと得な製品の性能、誤りやすいミスに関する事項を示します。

《安全に作業をするために》 …重要危険項目…

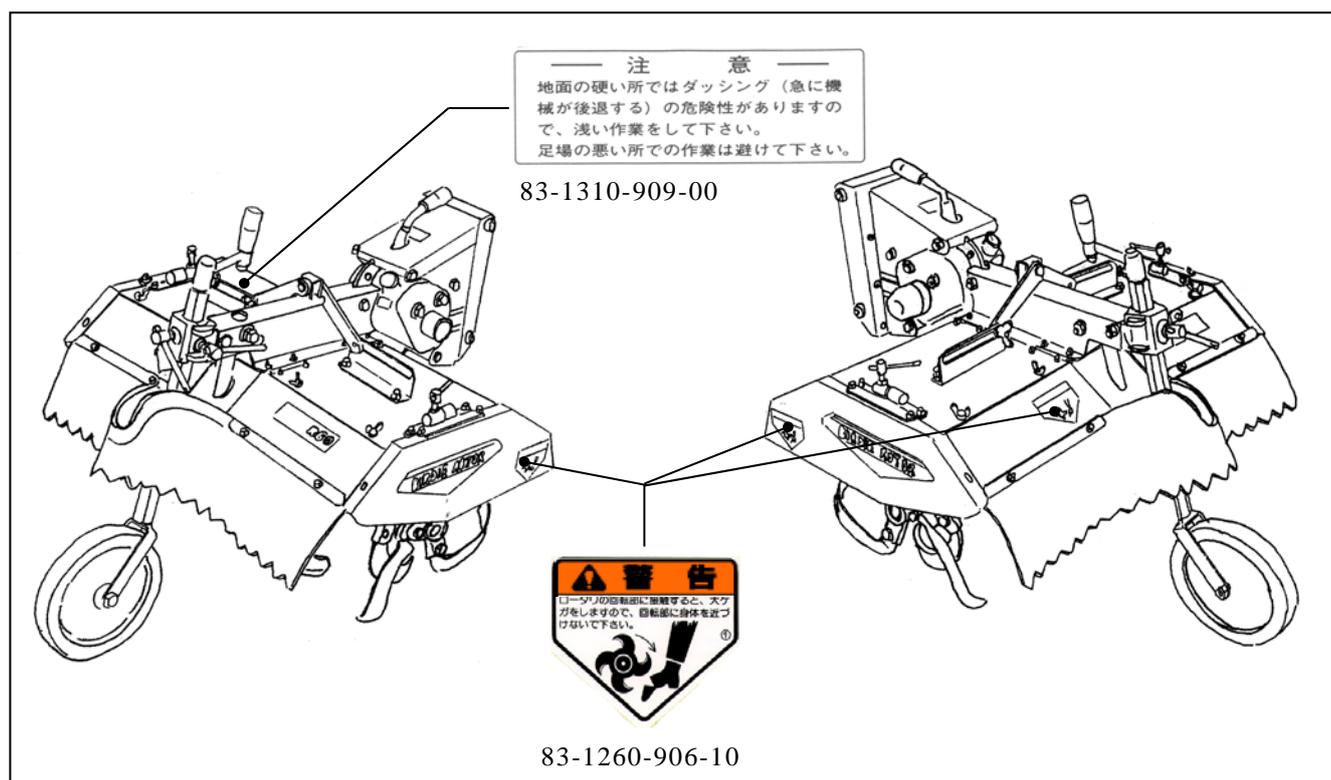
(1) 警告表示マーク

・以下の危険表示マークは本項目内における重要危険事項の中からとくに重要なものとして厳選されており、本体に貼付されています。ご使用前に必ずお読みいただき、十分理解して必ず守って下さい。

- …危険表示マークが見えにくくなった場合には、貼り変えるなどして常にはっきり識別できるようにしておいて下さい。 〈12頁…消耗品明細参〉

危険

- …本機はガソリンを燃料としており、作業中はもちろん機械のそばでのくわえたばこや焚き火等の裸火照明は引火の危険がありますので絶対にしないで下さい。



(2) 作業前の注意

- ・本機の運転に際しては使用上の注意事項を十分に理解し、安全運転を徹底してください。
- ・所有者以外の人には使用しないでください。
- ・作業者の体調が悪いときや過労ぎみ、飲酒時は作業しないでください。
また、子供や妊婦にも作業させないでください。

- ・機械の回転部に巻き込まれたりしないよう、作業着は、長袖の上着に裾を絞った長ズボンを着用し、マフラーやタオル等巻き込まれやすいものは着用しないでください。

▲警告 安全のためのカバー類はもとより、標準に装備されている部品を外しての運転は、非常に危険です。事故防止のためこれらのカバー類、部品は必ず装着した状態で使用してください。

- ・公道や、人や車の多い私道での使用は危険です。このような場所での運転はしないでください。

▲警告 暗いとき、視界が悪い時の使用は危険です。周囲の状況が十分に把握できないときには使用しないでください。

(3) 作業中の注意

- ・安全のため、余裕を持った運転を心掛け、急発進・急停止・急旋回はしないでください。
- ・ベルトスリップによる異常な音・匂い・発熱は火災の原因です。そのような時は、すぐにエンジンを停止して、点検・修理してください。

▲警告 回転部は危険です。特にロータリーカバー内は危険ですので、体を近付けないでください。

注意 石等、危険物の多い場所では事前に石等の異物は取り除き、障害物の位置を確認した後に作業を始めてください。

注意 特に固い圃場ではダッシング(ロータリー回転の反力により本機が前方もしくは後方に勢い良く飛び出すこと)の危険があります。耕深を浅く数回に分ける等、安全には十分に注意をして作業を行って下さい。

(4) 点検・整備時の注意

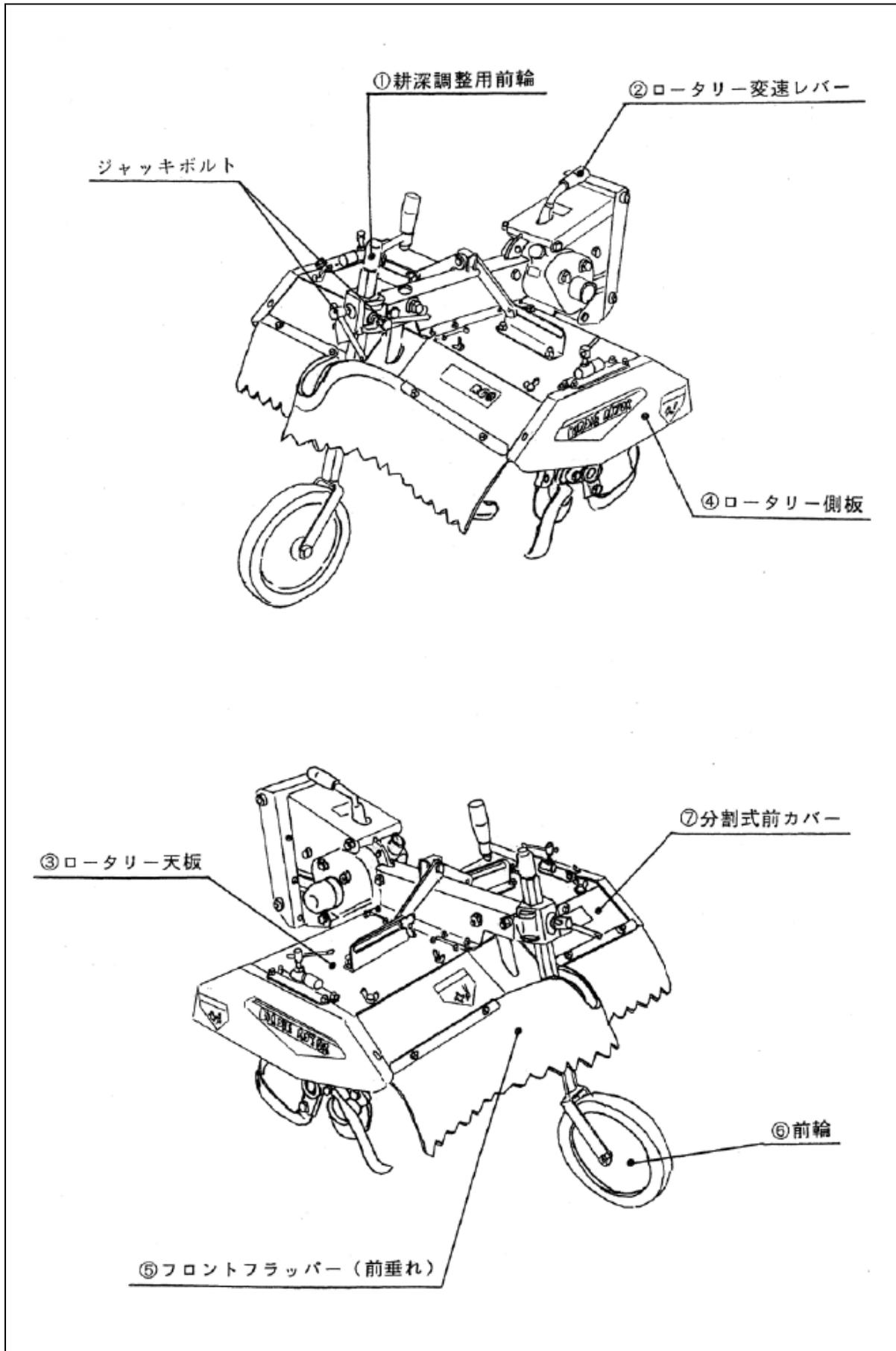
- ・機械の点検・調整・整備をするときは、必ずエンジンを停止して下さい。

▲警告 ベルトやロータリー部の安全カバー、及び飛散防止用のカバー、フラップ類の破損は危険です。作業中に異常を感じた箇所はそのままにせず、必ず作業を中断して点検、また作業終了後に再度点検し、必要な修理をしておいて下さい。

- ・取り外した回転部のカバー類は、必ず元の位置に正しく取付けて下さい。

▲危険 燃料パイプなどのゴム製品は古くなると、燃料漏れの原因となり危険です。
3年毎、又傷んだ時には締め付けバンドとともに新品と交換して下さい。

《各部の名称》



《各部のはたらき》

① 耕深調整用前輪

作業深さの調整を行います。

まず、前輪パイプを固定している2ヶ所のジャッキボルトで大まかな位置を調整し、その後作業をしながら前輪上部の耕深調整ハンドルを回して（右に回すと深く、左に回すと浅くなります。）最適な耕深に微調整をしてください。

また調整後は、2ヶ所のジャッキボルトは作業中、ゆるむことが無いようにしっかりと締め付けておいてください。

② ロータリー変速レバー

ロータリー回転の「低速」「高速」の切り換えを行います。

操作は必ず、本機側のPTOクラッチレバーを「切」位置にした後に行ってください。

参考：作業内容に応じて下表を目安にロータリーの回転数を選択してください。

ロータリー回転数	作業用途
低速	中耕・除草・攪拌・培土・整型
高速	溝掘り・土寄せ・砕土・土入れ

③ ロータリー天板

作業内容に応じてロータリー天板の上下を蝶ボルトで調整します。

- 土の移動が少ないほうが良い作業ではロータリー天板を一番下に下げた状態で作業をしてください。（主にロータリーの回転が「低速」での作業の場合。）
- 土をある程度の位置まで移動させたい作業には、作業目的に応じてロータリー天板の角度を上下に調整してください。（主に溝掘り・畝立て作業等、ロータリー回転が「高速」での作業の場合。）

調整後、蝶ボルトは作業中移動することのないように、しっかりと締め付けておいてください。

④ ロータリー側板

溝掘り作業等、主にロータリー回転を「高速」位置で作業をする場合、ロータリー天板と共に溝の形や土の飛び具合により適当な角度に調整してください。

調整後、蝶ボルトは作業中移動することのないように、しっかりと締め付けておいてください。

参考：

片排土作業時には右側のロータリー天板・ロータリー側板は共に閉じ、調整は左側のロータリー天板・ロータリー側板のみで行ってください。

⑤フロントフラッパー（前垂れ）

ロータリーカバー内からの石等の異物の飛散を防止します。
また、フラッパーが破損した場合には直ちに置き換えてください。

⑥前輪

前輪は固定式になっています。
旋回時には本機のハンドルを少し高めにして押し下げ、前輪を地面から少し浮かせて旋回してください。

⑦分割式前カバー

培土板・整形器等のアタッチメント(別売品)を装着する場合に取り外します。アタッチメントを装着しない通常の作業ではこのカバーは必ず装着してください。

▲警告

このカバーを取り外したままで作業を行うと、作業中の石等の異物の飛散によりケガをする恐れがあり大変危険です。

《機械を他人に貸すときは…》

▲警告

所有者以外の人には使用させないのが原則ですが、やむを得ず機械を他人に貸すときには、取扱い方法を説明し、「取扱説明書」をよく読んでもらい、取扱い方法や安全のポイントを十分理解してから作業をするように指導して下さい。

機械と一緒に「取扱説明書」も貸して上げて下さい。

親切心から機械を他人に貸して、借りた人が不慣れなために思わぬ事故を起こしたりするとせっかくの親切があだとなってしまいます。

《仕様》

名称	バーディーローター		
型式名	R60		
全長×全幅×全高[mm]	700×650×610		
耕幅[mm]	600		
ロータリー回転数 [rpm]	低速	223	
	高速	512	
耕うん爪[枚]	耕うん爪R×6	L×6	偏心耕うん爪R×2 L×2
重量[kg]	49		

※本仕様は改良のため予告なく変更することがあります。

《上手な作業のしかた》

- 本項目内では使用頻度の高い2つの作業について説明してあります。その他の作業のしかたについてはアタッチメント側の取扱説明書をご覧ください。
- 耕うん・溝掘り（畝立て）作業の場合、タイヤ[4.00-7B(5-1711-120-00)]とホイールチューブ[T2型(5-1711-165-000)]へ交換する必要があります。使用する本機の確認をしてください。※溝掘り（畝立て）幅によっては別に鉄車輪が必要です。

▲ 警告

- ロータリーカバー内の泥や異物等の除去、ロータリーの脱着、残耕スキの脱着等の際には安全のため必ずエンジンを停止した後に行ってください。
- ロータリー変速レバーの操作は、必ず本機側のP T Oクラッチレバーを一旦「切」位置にして行ってください。
- 溝掘り（畝立て）作業の際には、ロータリーがむき出しの状態となり大変危険ですので回転中のロータリーに接触することのないよう、特に注意してください。
- ビニールハウス内での作業では特に換気に注意し、有毒な排気ガスで中毒しないよう、ビニールの裾を開けるなどして換気には十分注意して作業を行ってください。
- 転落や衝突事故を防ぐため、建物、川、がけ、人のいる方向に向かっての作業は行わないでください。
- 変速の操作は必ず平坦地で行ってください。主クラッチレバーを「切」位置にした後に変速レバーを操作します。

※傾斜地で変速操作を行うと変速される瞬間に中立「N」の状態になり、暴走の恐れがあり非常に危険です。

運転前の始業点検

安全で快適な作業を行うために、「定期点検表」（17頁参照）に従って始業点検をおこない、異常箇所は直ちに整備をしてから作業を始めてください。

作業機に貼られている注意・危険マーク及び本機側の取扱説明書も良く読んでください。

耕うん作業のしかた

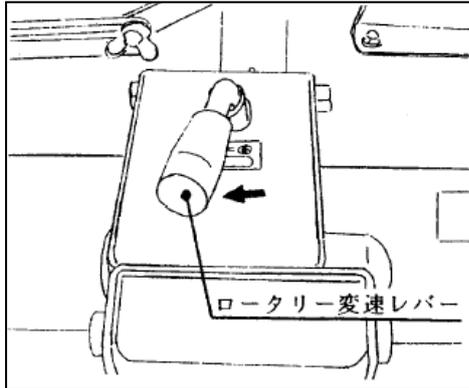
標準装備品

▲警告

バックでの耕うん作業は仕上げ作業（タイヤの跡消し）を行う場合のみ使用し、それ以外の作業では絶対に使用しないでください。固い圃場でいきなりバック耕うんを行うと、ダッシングによりハンドル部で腹部を強打する恐れがあり、非常に危険です。

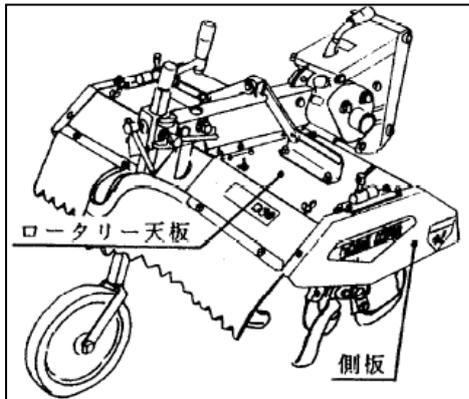
参考：

初めて本機を使用するときは、石等の異物のない平坦地を選び、ゆっくりと耕うん跡が少し重複するようにまっすぐに耕うんしてください。



①本機側の取扱説明書に従って作業機の脱着を確実に行ってください

②ロータリー変速レバーを「低」位置に確実に入れてください。



③ロータリー天板・側板とも閉じてください。

④耕深調整用前輪を所要の高さに調整し、調整後は2つのジャッキボルト確実に締め付けてください。

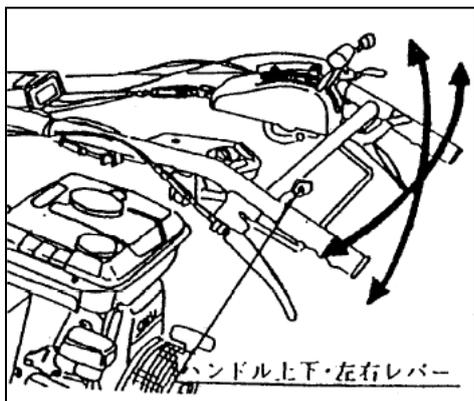
▲警告

特に地面が固い圃場の場合、最初から深くロータリーをかけ過ぎると本機が後方へダッシング（飛び出す）する恐れがあり非常に危険です。

このような場所では最初は浅めに設定し、地面の固さ等の状況を見ながら徐々に耕深調整ハンドルを操作して数回に分けて作業をするようにしてください。

参考：

- 木の下、垣根わき等ではハンドルを左右に振ると体を避けることなく作業ができます。
- 作業者の腰骨あたりにハンドルを位置させ、作業中は心持ハンドルを持ち上げ気味にしながらかかりと握って作業をしてください。
- 万一のダッシング（飛び出し）に備え、ハンドルと腹部には20～30cmの間隔を取りながら作業をしてください。



⑤本機側のハンドル上下・左右レバーで作業内容や作業者の体格に合わせてハンドルの上下・左右の位置を調整してください。

⑥本機側の取扱説明書に従ってエンジンを始動し作業を開始・終了してください。

▲ 警告

- 作業中障害物に当たった時はすぐにエンジンを停止させ、損傷を調べてください。異常があればすぐに修理してください。修理しないで再始動すると思わぬ事故につながります。
- 作業中、頻繁にエンジンがストップするようであれば作業速度を1段落とすか、もしくは耕深を浅くするか、2回に分けて作業をしてください。
- エンジンに草、木の葉等を堆積させないでください。これら可燃物が堆積すると火災の原因になったり、本機を破損する場合があります。

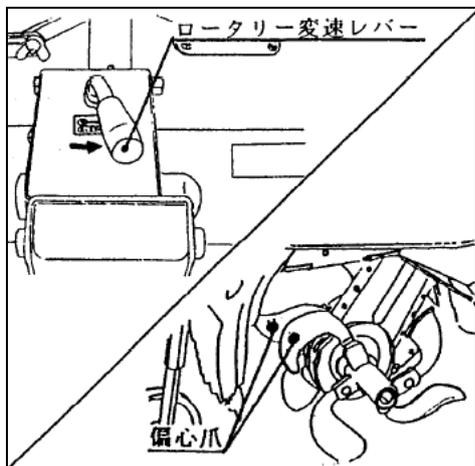
溝掘り（畝立て）作業のしかた アタッチ（別売品）

▲ 警告

- 特に溝掘り作業においては泥や小石等の異物がロータリーカバーより前方へ飛び出す恐れがあります。作業より前に人（特に子供）がいないことを確認したうえで作業を行ってください。

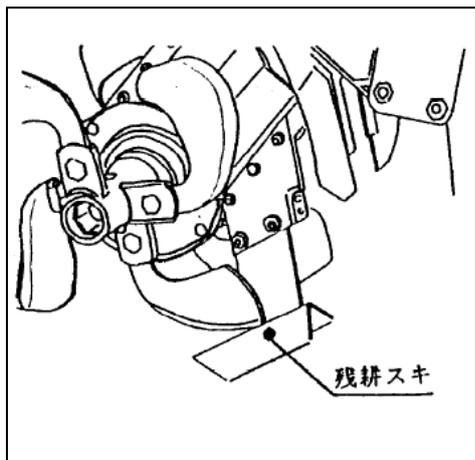
参考：

- 溝掘り（畝立て）作業は車幅をロータリー幅より狭くして作業を行います。
ロータリー幅によっては「鉄車輪（別売り）」を使用して車幅をより狭くして作業する場合もあり、特に左右のバランスが取りにくくなりますのでハンドルはしっかりと握って作業してください。
- 作業は数回に分けて行います。1回で仕上げようとすると一度上げた土が畝間に崩れ落ち、きれいな溝（畝）は作れません。最低でも2回以上に分けて作業をしてください。
- 作業に慣れるまで、ハンドルの左右調整は行わず（中心位置）、上下調整のみで行ってください。
特に鉄車輪の場合、バランスが取りにくくなります。



- ①ロータリー変速レバーを「高速」側にしてください。
- ②ロータリーの回転方法に注意して所要の溝掘りローターと入れ換えてください

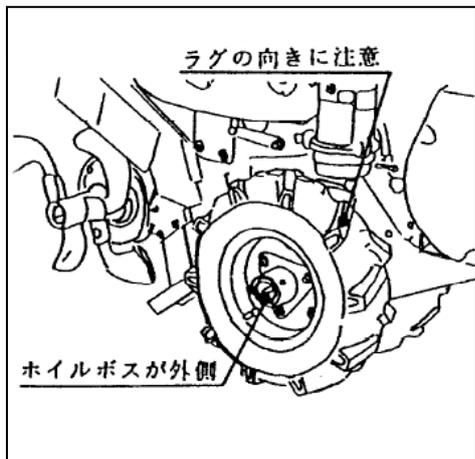
- 左右ローターが一番内側に付いている偏心爪の位置を合わせてセットし、同時打ち込み（左右対称）になるようにしてセットピンで固定します。



- ③残耕スキ（付属品）をロータリーケース下部の取付ブラケットに確実に取り付けて下さい。

注意

残耕スキは溝掘り（畝立て）作業時のみセットしそれ以外の作業では使用しないでください。その他の作業で使用すると、残耕スキが抵抗となりタイヤがスリップしうまく直進しません。



- ④溝掘りローターに付属している短いホイールチューブを使用してタイヤ（鉄車輪）をミッション側に寄せて車幅を調整してください。

- タイヤのラグの向きに注意してください。

注意

- 取り付けは左右のタイヤを入れ替えて、ホイールボスが外側を向くようにしてセットしてください。この際、溝掘りローターの作業幅より、車幅が必ず狭くなる位置にセットします。作業幅より車幅が広いと・・・
溝（畝）の上、又は斜面をタイヤが通ることとなり、せっかく上げた溝（畝）を崩していくばかりでなく、直進安定性が非常に悪くなります。
- タイヤの向きはそのままで作業幅の内側に車幅を寄せられる場合には左右のタイヤの入れ換えは必要ありません。
- 作業安定性を確保するためにはできる限り、車幅は広く取ってください。

- ⑤後は前述の耕耘作業のしかたを参考にして作業を「開始」「終了」してください。

上手な作業の例

●溝掘り作業

圃場の条件にもよりますが、3回を目安に希望する作業深さにするつもりで作業をしてください。

① 1回目

- 耕深調整用前輪はエンジンが無理しない程度のできるだけ深い位置として下さい。
- ロータリーカバー、側板は共にオペレーター側に土がかからない程度の位置まで大きく開きます。
- 上げた土は出来るだけ遠くに飛ばすようにします。
- 本機がダッシングするようであれば耕深調整用前輪をダッシングしない程度まで浅くして下さい。

② 2回目

- 耕深調整用前輪は1回目より浅くします。1回目よりさらに深くするとダッシングの度合いが激しくなり危険です。
- ロータリーカバー・側板はさらに大きく開け、上げた土が溝の中に落ち込んでこないように注意します。
- 本機がダッシングするようであれば耕深調整用前輪をダッシングしない程度まで浅くして下さい。

③ 3回目（仕上げ作業）

- 耕深調整用前輪はさらに浅くし、溝の中に落ち込んだ土をさらう感じにします。
- ロータリーカバー・側板共に一杯まで開きます

●畝立て作業

圃場の条件にもよりますが、最低でも2回以上で仕上げるつもりで作業をしてください。

① 1回目

- 耕深調整用前輪はエンジンが無理しない程度のできるだけ深い位置として下さい。
- 畝のほぼ中心に土が落ちる様にロータリーカバー・側板を作業しながら調整します。
- 本機がダッシングするようであれば耕深調整用前輪をダッシングしない程度まで浅くして下さい。

② 2回目（仕上げ作業）

- 耕深調整用前輪は1回目より浅くします。1回目よりさらに深くするとダッシングの度合いが激しくなり危険なばかりでなく、未耕起の土をも畝上に跳ね上げて植え付けができなくなってしまいます。
- 側板はやや閉じ目にし、ロータリーカバーを調整しながら①回目で上げた土の横に落としていくつもりで作業をしてください。あまり大きく開けすぎると隣の畝溝にまで土を飛ばしてしまいます。
- 畝溝に残っている土をさらえるつもりで作業をしてください。

深さ（仕上がり状態）が足りない場合にはさらに同じ操作を繰り返してください。特に1回目は安定しないので直進性には十分注意してください。2回目以降は1回目で出来た溝にタイヤが沿っていきますので安定性は良くなりますが、それだけに1回目の作業が重要になってきます。

《保管のしかた》

- ・ロータリーカバー内に付着した泥等はこれが乾かない内にホース等、加圧した水で清掃を行うと比較的に洗い落とすことができます。

※この時、本機側のエンジンの電装関係や気化器、エアクリーナー、マフラー排気口に水がかからないようにカバーをかける等して注意してください。エンジン始動不良の原因になります。

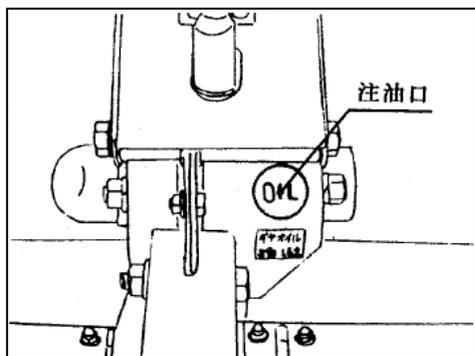
- ・屋根のある風通しの良い湿気の少ない水平な場所で、本機にセットして保管してください。
- ・カバー等をかけてほこりにつかないようにしてください。

《各部オイルの点検・交換・注油のしかた》

注意

- ・出荷時、作業機にはオイルは入っておりません。使用前には必ず指定の箇所に指定のオイルを指定の量だけ入れてください。
- ・定期的なオイル交換は、作業機を常に最良の状態を使用するために是非必要です。
- ・オイルの点検・交換をする場合には、必ず本機に作業機をセットした状態で平坦な広い場所に置き、エンジンを停止してください。

ロータリーケース



●注油・・・

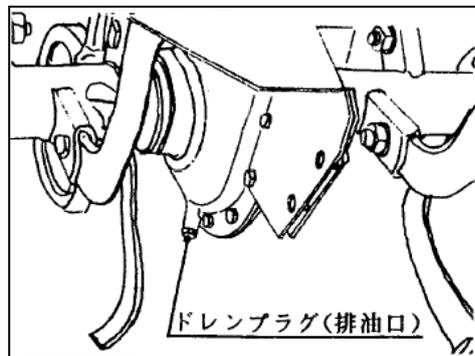
ロータリーケース上部の注油口よりミッションオイル（#90）を1.6ℓ入れてください。

●点検・・・

エンジンを停止し、注油口より見て、ロータリーチェーンがミッションオイルで濡れていればほぼ規定量のミッションオイルが入っています。

●交換・・・

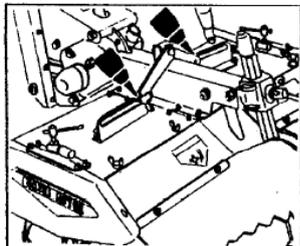
初回は20時間目、それ以降は100時間運転毎にロータリーケース下部のドレンプラグ（排油口）を外して行ってください。



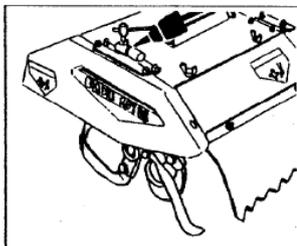
可動部への注油

- ・約30時間毎にエンジンオイル及びグリースを確実に注油してください。
- ・注油を怠ると油切れにより動作が重くなり、最悪破損の恐れもあります。

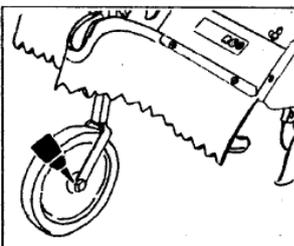
ロータリー天板上下アーム支点



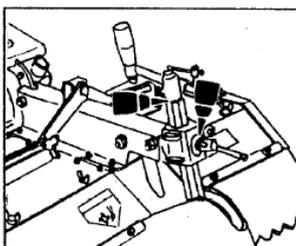
ロータリー側板ブラケット部



前輪軸部



耕深調整ハンドル部



《そのほかの点検》

- 各部を十分に馴染ませるために最初の2～3時間は無理な作業は避けてください。
- 作業後の手入れ、および定期的な点検も忘れずに行ってください。

(17頁・・・定期点検表参照)

《耕うん爪の点検と交換のしかた》

▲ 警告

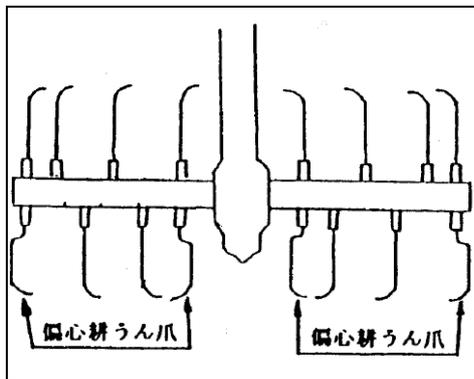
- ・この作業を作業機を本機から外し、作業機単独で立てた状態で行うと作業中に作業機が倒れて大変危険です。必ず本機に作業機をセットした状態で行ってください。
- ・ロータリー変速レバーの「低速」位置と「高速」位置の間には、いわゆる「中立」にあたる位置がありますので、ロータリー変速レバーを手のひらで叩くようにしながらこの位置に合わせてロータリーをフリーにしておいてください。
- ・さらにロータリー天板・側板を開いた状態にしておくとう作業がやり易くなります。

点検：

耕うん爪は始業前に必ず点検し、損傷・曲がり・摩耗を点検してください。また、爪取付部のガタがないかも点検し、もしゆるみがあれば増し締めをしてください。

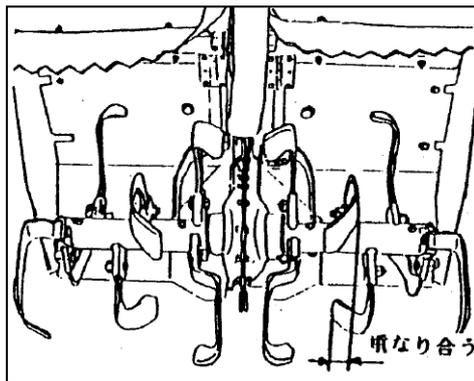
注意

- ・耕うん爪の点検をする前には必ずエンジンを停止してください。
- ・ロータリーの脱着、耕うん爪の交換の際にはロータリーの回転方向、耕うん爪の向きに十分注意してください。



- ・ロータリーを水平な場所に置き正面から見て互いの爪が重なり合わなくなったら交換時期です。

交換：



- ・耕うん爪の取付ボルトを付属の工具で外して交換してください。
- ・偏心耕うん爪は、左右の一番外側と内側にそれぞれ1本ずつ取り付けてください。残りの爪を左図のように確実に取り付けてください。

参考：

- ・交換は1本ずつ行った方が取り付け位置を間違えずに済みます。
- ・耕うん爪交換の際には、爪取り付けボルトが緩まないようにしっかりと締め付けておいてください。
- ・作業終了後にはロータリー変速レバーを必ず「低速」位置、あるいは「高速」位置へ確実にに入れておいてください。

《工具袋・同梱品明細》

No.	部品名	個数
①	取扱説明書	1
②	品質保証書	1

《工具袋・同梱品明細》

No.	部品名	部品番号	個数/台	備考
①	耕うん爪 L	80-1330-821-00	6	刻印 65AL φ10
②	耕うん爪 R	80-1330-822-00	6	刻印 65AR φ10
③	偏心耕うん爪 L	80-1330-826-00	2	刻印 65ASL φ10
④	偏心耕うん爪 R	80-1330-827-00	2	刻印 65ASR φ10
⑤	爪取り付けボルトセット	83-1310-835-00	16	M10 φ10 穴用
⑥	危険マーク①	83-1260-906-00	3	ロータリーの回転部に・・・
⑦	注意マーク⑩	83-1310-909-00	1	地面の固い・・・

《アタッチメント（別売品）の紹介》

品名	型式	コード No.	AR600	AR700	R60	備考
丸うね盛セット	AS3C-B	7-1712-910-300		○	○	
ハイマルチ	R101B	7-1712-511-300		○	○	
丸うね盛セット	BS3C-B	7-1712-912-300	○	○	○	
ハイマルチ	R56C	7-1712-512-100	○	○	○	
うね盛セット	ES15C-B	7-1712-933-200	○	○	○	
うね盛セット	ES18C-B	7-1712-935-200		○	○	
ハイマルチ	R301C	7-1712-534-200	○	○	○	ES15C-B ES18C-B用
うね盛セット	BMS13C-B	7-1712-930-300	○	○	○	
ハイマルチ	R56C	7-1712-512-100	○	○	○	
平うね整形マルチ	FP15C-B	7-1712-937-200	○	○	○	
〃	FP18C-B	7-1712-938-200		○	○	
〃	FP21C-B	7-1712-939-200		○	○	
ホイルチューブ	T0	5-1712-169-000	○	○	○	長さ 400mm×2
〃	T1	5-1751-169-000	○	○	○	長さ 270mm×2
〃	T2	5-1711-165-000	○	○	○	長さ 190mm×2
タイヤセット	350-6B	5-1310-120-000	○			幅 92mm φ350mm
〃	350-7B	5-1330-120-000	○	○		幅 92mm φ350mm
〃	400-7B	5-1711-120-000		○	○	幅 111mm φ400mm
〃	400-8B	5-1711-125-000			○	幅 111mm φ440mm
〃	16×700-8B	5-1751-120-000		○	○	幅 180mm φ400mm

品名	型式	コード No.	AR600	AR700	R60	備考
溝掘りローター	KW16P	5-1712-615-600	◎			溝底幅 160mm
	KW20P	5-1712-620-600	◎			溝底幅 200mm
	KW25P	5-1712-625-600	○	◎	◎	溝底幅 250mm
	KW30P	5-1712-630-600	○	○	◎	溝底幅 300mm
	KW35P	5-1712-635-600	○	○	○	溝底幅 350mm
	KW40P	5-1712-640-600	○	○	○	溝底幅 400mm
	KW50P	5-1712-655-600	○	○	○	溝底幅 500mm
	KW60P	5-1712-660-600		○	○	溝底幅 600mm
延長溝掘りローター	KW20EP	5-1712-690-600		○	○	KW40P 以上と併用
片排土ローター	KW20KP	5-1712-720-600	◎			KW16P・20P と併用
	KW30KP	5-1712-730-600	○	◎	◎	KW25P・30P と併用
	KW40KP	5-1712-740-600	○	○	○	KW35P・40P と併用
	KW50KP	5-1712-755-600	○	○	○	KW50P・60P と併用
鉄車輪	16	5-1310-110-000	○	○	○	AR 用
ゴム付鉄車輪	67	7-1330-110-000	○	○	○	AR 用
前車輪	60S	5-1712-515-000	○	○	○	前輪フォークと車輪
前双輪	60W	5-1712-510-000	○	○	○	前輪フォークと車輪
中耕培土板		7-1330-521-400	○	○	○	
ブラ溝浚器		7-1320-544-500	○	○	○	
シャトル培土		7-1320-520-000	○	○	○	
延長中耕ローター	E5	5-1310-810-000	○			延長耕幅 300mm
〃	E7	5-1330-810-000		○		延長耕幅 300mm
〃	ER90	5-1712-810-000			○	延長耕幅 300mm
小型中耕ローター	K5	5-1310-830-000	○			耕幅 350mm
〃	K7	5-1330-830-000		○		
リヤーヒッチ	A	5-1310-530-000	○	○		
〃	B	5-1711-530-000			○	BX80 用
バランスウェイト	A	5-1310-531-000	○	○	○	リヤーヒッチ用 8.0kg

注意：◎印は鉄車輪併用の事

《定期点検表》

- 点検や整備を怠ると事故の原因となることがあります。正常な機能を発揮させ、いつも安全な状態であるようにこの「定期点検表」を参考に点検をおこなってください。
- 年次点検は1年に1回、月例点検は1ヶ月に1回、始業点検は作業を開始する前に毎日点検を行うようにしてください。

項目		点検内容		点検実施時期		
				始業	月例	年次
伝達部	ギヤボックス	①異音、異常発熱及び作動	作動に異常はないか、また異音、異常発熱はないか		○	○
		②油量、汚れ	オイルの量は適切か、また著しい汚れはないか			○
		③油漏れ	オイルシール、パッキン部に油漏れはないか	○	○	○
車体	車体	①亀裂、変形及び取付ボルト・ナットの緩み、脱落	フレームの亀裂、変形、ボルト・ナットの緩み、脱落はないか		○	○
	カバー	②亀裂、変形、腐食	亀裂、変形、腐食はないか			○
表示マーク		①損傷	注意、危険、指示銘板が損傷なく貼り付けられているか		○	○

《自己診断表》

もし次のような現象が発生した場合には取扱説明書を参考にして適切な処置をしてください。

現象	原因	処置
残耕が出る	耕うん爪が減っている	耕うん爪を交換する（交換時は全数交換の事）
	耕うん爪の取付け方が間違っている	正しく耕うん爪をセットする
	センタードライブのため	耕うん幅を重ねる
ダッシングが起きる	作業抵抗が大きすぎる	作業深さを浅くする
	圃場が固い	2回に分けて作業する
	作業速度が速い	作業速度を落とす
	バック耕うん（正転作業）をしている	前進耕うん（逆転作業）をする
平面耕ができない	耕うん爪の取付け方が間違っている	正しく耕うん爪をセットする
	耕うん爪が減っている	耕うん爪を交換する（交換時は全数交換の事）
	ロータリーの左右が逆になっている	正しく耕うん爪をセットする
	ロータリー変速レバーが「高速」になっている	ロータリー変速レバーを「低速」にする
ロータリー部より異音がする	ロータリーへの異物の噛み込み	異物を取り除く
	ロータリー軸の変形	ロータリー軸を交換する
	ロータリーカバーの変形	ロータリーカバーを修正する
	爪取付けボルトが緩んでいる	爪取付けボルトを増し締めする
ロータリーが回転しない	ロータリー変速レバーが抜けている	ロータリー変速レバーを確実に入れる

※わからない場合は、お買い上げいただきました販売店にご相談ください。